

公的年金の積立金を運用する「年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は 11 月 30 日、2015 年 7～9 月期の収益が 7 兆 8899 億円の赤字（収益率マイナス 5.59%）だったと発表した。

年金保険料を市場で運用を始めた 2001 年度以降、四半期ベースの赤字としては最大で、収益率も 3 番目に悪かった。GPIF が年金保険料の株式取引での運用を強化した 2014 年 10 月末以降では、初の赤字となった。

今回の赤字を含めても、2001 年度以降の収益率は計 45 兆 4927 億円の黒字を維持している。GPIF は「短期的には赤字が出ても、長期的には安定して収益を得ている」と説明しているが...

赤字の内訳では、国内株式（4 兆 3154 億円）、外国株式（3 兆 6552 億円）が大きかった。中国の景気減速への懸念や、米国が利上げを実施するタイミングの不透明感などから、国内外の株価が 8 月中旬から大きく下落したことが影響した。国債を中心とした国内債券などは黒字だった。

GPIF が運用する資産は世界最大規模の約 130 兆円に上り、収益は年金の支払いに使われている。海外でも年金保険料を株式で運用するのは一般的である。

（2015/12/01 読売新聞から）